

## 平成 30 年度 野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業 目標管理シート

### 1 目標（何をを目指すのか。）

#### 【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である野鳥園臨港緑地の湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供する。

### 2 使命（どのような役割を担うのか。）

#### 【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供する。

### 3 平成 30 年度 運営の基本的な考え方（方針）

#### (1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的な管理を実施する。

- ① 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加によるカキ礁の手入れや休み場づくりなどの湿地保全作業の実施

#### (2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての湿地の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成
- ② 広報活動の充実

※野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地と表現する。

※本文中で野鳥園臨港緑地は野鳥園と省略して表現する。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～		
計画	将来像	<p>1. シギ・チドリ類の種数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春（3～5月）：シギ・チドリ類の渡来種数 22種</li> <li>・秋（8～10月）：シギ・チドリ類の渡来種数 24種</li> </ul> <p>湿地の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。</p> <p>※シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</p> <p>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数：60種</p> <p>湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</p> <p>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。</p>
	現状 (課題設定の根拠となる現状)	<p>野鳥園は開園（1983年9月）以後、湿地の保全・再生と順応的管理を継続して実施しており、現在も多くの種類のシギ・チドリが渡来するなど、生息環境が減少または悪化する中、渡り鳥の大切な中継地となっているが、国内の他の湿地同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。</p>
	要因分析	<p>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</p> <p>2. 野鳥園の湿地の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表層の有機物堆積層の流出</li> <li>2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少（北池）</li> <li>3) 一部の砂質化</li> <li>4) 表層のバイオフィルムの減少</li> <li>5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大（地盤は年間に平均1センチ低下）など</li> </ol>
	手法 (上記要因を解消するために必要なこと)	<p>有機物が堆積しやすく多様な餌生物が多く生息し、多くの渡り鳥が飛来して、安心して採食でき休息できる環境づくりを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり【継続】</b> 北池に拡大するカキ礁の手入れ（移動）作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ干潟の餌場の拡大を図るとともに、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。【校園や市民ボランティアに呼びかけ】</li> <li>2. <b>緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善【継続】</b> 干潟内への落ち葉投入（野鳥園の緑地部分で採取したものを活用）について、効果の取りまとめを行いつつ、腐食した落葉の投入が有効であるため継続して取り組む。また、新たにブルーカーボンに着目した調査を実施するなどし、引き続き、堆積物表層の有機物流出の抑制・底層生態系の創出を図る。</li> <li>3. <b>塩分の測定【継続】</b> 塩分濃度と干潟に生息する生物との関係を調査し、今後の対策の参考とするため、塩分測定を継続して実施し湿地環境のモニタリングを行う。</li> </ol>

重点的に取り組む課題 ー (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成30年10月31日）		年度報告（報告日：平成31年3月19日）	
<p>取組事項</p>	<p><b>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>カキ礁の手入れ作業</u>                      築港中学校の生徒が参加し、北池の干潟のカキを拾い集め、昨年度に引き続き干潟として干出しない浅場に移動させる作業を行った。また、昨年北池の浅場に移動させ設置したカキ礁の周りにさらにカキを投入してカキ山を大きくする作業を行った。(7月14日)</li> <li>・ <u>新たな休み場作り</u>                      南池にシギ・チドリ類、カモ類の休み場やミサゴの止まり場を NPO 法人南港ウェットランドグループ（以下 NPO とする。）で作製し設置していたが、台風 21 号によってすべて流されたため、NPO と市民ボランティアで、これらの設置に向けての準備を実施中である。ミサゴの止まり場については1箇所のみ10月下旬にヨシ原に設置した。</li> <li>・ <u>シギ・チドリ類の渡来種数</u>                      春（4～5月） 19種                      秋（8～10月） 28種</li> </ul> <p>※台風 21 号により、池の底に堆積している有機物や細粒分（泥）が攪乱されて表層に巻き上げられ、底生生物の生息環境が更新された結果、底生生物の増加が見られ、野鳥の渡来数・渡来種数ともに昨年度より目視により増加している。</p> <p><b>2. 緑地部で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善</b>                      台風 21 号により、落ち葉投入せずとも、底生生物の増加が見られ、干潟の状態が良いため、現在のと</p>	<p>取組事項</p>	<p><b>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>カキ礁の手入れ作業</u>                      築港中学校の生徒により、北池の干潟のカキ礁の一部を移動させ、昨年設置したカキ山（鳥の休み場）の周りにさらにカキを投入する作業を行った。</li> <li>・ <u>新たな休み場作り</u>                      南池に湿地していた休み場は、台風によってすべて流されたが、ミサゴの止まり場については10月、シギ・チドリ類の休み場については3月に再設置を行った。</li> <li>・ <u>シギ・チドリ類の渡来種数</u>                      春（4～5月） 19種                      秋（8～10月） 28種                      冬（11～3月） 11種</li> </ul> <p>※今年度はダイシャクシギ2羽が2か月半程度の長期間にわたり滞在した。</p> <p><b>2. 緑地部で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善</b>                      台風 21 号により、池の底に堆積している有機物等が表層に巻き上げられたことで、落ち葉を投入せずとも底生生物の増加が見られ、干潟の状態が良いため、今年度は、落ち葉の追加投入を行わなかった。すでに投入している箇所については経過観察中。</p> <p><b>3. 塩分の測定</b>                      今年度から新たな塩分計測装置（水中用電気</p>

ころは、落ち葉の投入を行っていない。

### 3. 塩分の測定

今年度から新たな塩分計測装置（水中用電気伝導率(塩分)/温度計測データロガー）を導入し、1～3週間（6月13日～23日、7月11日～25日、10月3日～24日）の定点連続測定を行った。

### 4. その他

#### ・漂着ゴミ回収

6月に約300名で行い、ゴミ袋320個分の漂着ゴミを回収することが出来た。

#### ・台風21号による被害

台風20号に続き台風21号により、湿地の3つの池は一つとなり、高潮と波により海水が展望塔前の植え込みまで達した。それに暴風が加わり、植栽エリアや緑地部における倒木（約598本）、構造物の被害（北観察所の屋根、北門および護岸の柵）、護岸の東側の管理用道路とヨシ原への土砂や岩の移動、大量のゴミの堆積、西池北端の滞筋への土砂と岩の堆積による海水の流れの減少といった様々な影響があった。

#### ・台風21号の被災調査

NPO、大阪市が巡回により状況把握を行った。また、大阪市立大学により、野鳥園全域における植生と地形をドローンにより空撮し、台風による被害状況の調査（10月3日）を行った。

#### ・台風21号の復旧作業

伝導率(塩分)/温度計測データロガー）を導入し、1～3週間（6月13日～23日、7月11日～25日、10月3日～24日、2月20日～3月10日）の定点連続測定を行った。

### 4. その他

#### ・漂着ゴミ回収

6月に約300名、11月に約150名のボランティアの協力を得てゴミ回収を実施した。3月にも約50名のボランティアにより、残る漂着ゴミを回収した。（市民参加含む）

#### ・台風21号の復旧作業

台風21号により甚大な被害を受けたが、展望塔浸水の処理や漂流ゴミの回収、北観察所までの園路の確保等を行い、被害発生後の観察会も無事開催することが出来た。また、みお筋の仮掘削、吹き飛んだ北観察所の屋根の撤去、北池湿地の（市民による）竹伐採等の復旧作業も行った。

#### ・大阪市立大学によるブルーカーボンの調査

本年度は、ブルーカーボン（海洋生態系により固定される炭素）の年間貯留量のストック効果を評価するため、堆積物のサンプリング調査やドローン空撮を行った。

	<p>展望塔 1 階部分浸水に関して、NPO スタッフと野鳥ガイドにより、床の清掃と消毒を行った。また、大阪市により、緑地部分の倒木処理（優先箇所より順次処理中）や各種応急対策を行った。</p> <p>・<u>大阪市立大学によるブルーカーボンの調査</u></p> <p>カーボンストック効果を評価するため、干潟部で堆積物のサンプリングを実施した。（7月25日）また、台風21号の被災調査の際にブルーカーボン（海洋生態系により固定される炭素）の年間貯留量の調査も兼ねてドローン空撮を行った。（10月3日）</p>					
数値目標	計画		実績		振返り	
	項目	最終目標	中間実績	H30年度実績	最終目標比較増△減	H29年度実績
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26回	18回	23回	△3回	23回
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	1月実施予定	1月実施		実施
	環境省（モニタリングサイト1000）への情報提供	実施	実施	実施		実施
シギ・チドリ類の渡来種数	春（3月～5月）	22種	20種	19種	△3種	22種
	秋（8月～10月）	24種	30種	28種	+4種	27種
湿地再生PT	湿地再生PTの開催回数（資料整理や調査含む）	2回	1回	1回	△1回	0回
底生生物調査	底生生物調査回数	2回	3回	5回	+3回	4回
	塩分の測定回数	3回	3回	4回	+1回	3回
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3回	1回	3回		2回
	ボランティア参加人数	400人	約450名	約500名	+100名	210人
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場作り等の実施回数	5回	6回	11回	+6回	9回

	カキ礁の手入れ作業の実施	実施	実施	実施		実施
中間評価（評価日：平成30年10月31日）			年度評価（評価日：平成31年3月19日）			
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込		総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成		
自己評価 （課題と改善策）	<p><b>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり</b> 北池の干潟のカキ礁を拾い集め、浅場に移動させる作業により、シギ・チドリ類の採餌環境を維持すると同時に、水質浄化や多様な生物の隠れ場所として重要な役割を持つカキ礁環境の両立が期待できるため、引き続き作業を行う必要がある。</p> <p><b>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善</b> 今後も、底生生物や利用鳥類の調査を行い、湿地の状態を経過観察していく中で、必要に応じ落ち葉投入を検討する。なお、これまでNPOの調査における落ち葉投入による効果の確認とともに、大阪市立大学の研究においてもその効果が論文により発表されている。（「堆積層への落ち葉散布が砂質化した人工干潟の底層生態系に及ぼす効果に関する研究」（2018））</p> <p><b>3. 塩分の測定</b> 昨年度までの塩分測定では、現況調査時のピンポイントでの数値しか把握できていなかったが、データロガーによる連続測定が可能となった。今年度の調査により、雨が降った後には園内の湿地の塩分が低下し、半海水程度のかかなり低い塩分の状況が長く続くことも明らかとなった。これまでの塩分測定結</p>		自己評価 （課題と改善策）	<p><b>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり</b> 北池の干潟のカキ礁を拾い集め、浅場に移動させる作業により、シギ・チドリ類の採餌環境を維持すると同時に、水質浄化や多様な生物の隠れ場所として重要な役割を持つカキ礁環境の両立が期待できる。台風21号後も北池にカキの繁殖が見られることから、カキ礁の手入れ作業を引き続き行う必要がある。</p> <p><b>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善</b> 引き続き底生生物や利用鳥類の調査を行い、湿地の状態を経過観察していく中で、必要に応じ落ち葉の追加投入を検討する。</p> <p><b>3. 塩分の測定</b> 今年度より、データロガーによる連続測定が可能となった。これまでの塩分測定結果から、各地点ごとに塩分濃度に差があることが判明しており、多様な生物の生息環境が保持されていることが推測される。今後はデータロガーによる連続測定箇所を追加し、広範に生物調査等に必要なデータの蓄積、モニタリ</p>		



果からも、各地点ごとに塩分濃度に差があることが判明しており、多様な生物の生息環境が保持されていることが推測される。今後も塩分計による連続測定を行い、生物調査等に必要なデータの蓄積、モニタリングを行っていく。

#### 4. その他

##### ・台風 21 号の被災調査

NPO、大阪市による調査結果は、以下の復旧作業に反映している。

##### ・台風 21 号の復旧作業

干潟や緑地・観察所などの施設が被災したことから、干潟の生きものや渡り鳥の環境を保全するため、西池北端のみお筋に堆積した土砂と岩の移動など、早急に重機による復旧を行う計画をしている。(担当:港湾局)

また、倒木処理については、優先箇所より順次行っているが、倒木本数が膨大であるため、順次処理を行う。(担当:建設局)

##### ・大阪市立大学によるブルーカーボンの調査

堆積物のサンプリング調査については、底質を分析するとともに、100 日間の生分解試験を実施中である。また、ドローンによる調査については、撮影画像を解析中である。これらの調査により、有機物の分布状況を把握することで、藻類による炭素の吸収量を推定し、ブルーカーボンの年間貯留量を明らかにし、湿地の維持管理へのフィードバックを行

ングを行っていききたい。

#### 4. その他

##### ・台風 21 号の復旧作業

西池北端のみお筋については、堆積した土砂の仮掘削を行った結果、潮の満ち引きが作業前に比べ若干回復したが、未だ湿地の海水の循環が十分ではないため、もう少し深く掘削する必要がある。しかしながら、台風による攪乱が生物多様性に良い影響を与えている可能性があるため、干潟内において土砂が埋まった箇所の復旧については、生物の生息状況の変化なども観察しつつ、必要に応じ復旧作業を実施していく。

倒木処理(緑地全体での倒木数が約 600 本)については、園路付近の撤去作業は概ね終了した。ただし、野鳥の生息環境を維持する観点より、林の中の倒木はそのままにし、生物や野鳥の生息環境の変化について経過観察を行っていききたい。

##### ・大阪市立大学によるブルーカーボンの調査

人工干潟であっても、野鳥園の干潟が砂浜や磯浜に比べ CO2 を多く貯留し(堆積物のサンプリング調査による生分解試験(2018))、また、CO2 の固定化に寄与していること(「大阪南港野鳥園北池塩性湿地における高水温期の CO2 吸排出特性」(2016) 土木学会

	<p>う。なお、野鳥園北池湿地が CO2 の固定化に寄与していることは大阪市立大学の研究においても明らかにされている。「大阪南港野鳥園北池塩性湿地における高水温期の CO2 吸排出特性」(2016) 土木学会論文賞受賞)</p> <p>今後、結果や対策を湿地再生 PT 会議などで報告と意見交換をする必要がある。</p>		<p>論文賞受賞) が明らかにされている。このように、温室効果ガス削減に貢献している点からも、野鳥園における干潟・湿地保全事業を行うことの意義が大きいといえる。</p> <p>また、ドローンによる画像解析については、現在、実施中である。結果の取りまとめや湿地再生 PT 会議での報告は次年度となる予定であるが、干潟のカーボンストック効果を把握することで野鳥園による温室効果ガス削減への貢献度を明らかにし、湿地の維持管理へのフィードバックを行っていく。</p>
<p>委員評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 湿地の保全・再生に係る様々な取組は、NPO 調査における生物の現況把握とともに大阪市立大学の各種研究成果に反映されるなど、客観的にも評価を受けている。今後も大学などと協働した取り組みを継続し、野鳥園の自然環境の保持・改善に繋げてほしい。</li> <li>2 塩分測定については、今年度より新たな塩分計による一定期間の定点連続測定が実施されているが、今後は維持管理の面から、やや広範な塩分濃度の把握が行えるよう、複数カ所で計測していくとよい。</li> <li>3 台風 21 号による被害は甚大なものであるが、干潟の生きものの生息環境の早期回復や施設の保全の為、大阪市における迅速な復旧対策が必要である。</li> </ol>	<p>委員評価</p>	



4 重点的に取り組む課題 – (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画し、実施する。</li> <li>2. 専門的知識を有する多数の人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。</li> </ol>
	現状（課題設定の根拠となる現状）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度実施した観察会は、参加者は増加したものの、アンケートでは、平均して約2割～3割の参加者が「やや不満」「普通」と回答している。</li> <li>2. 学校との連携については現在港区にある築港中学校・市岡高校等と連携している。</li> </ol>
	要因分析	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習会の満足度が当日の自然環境（野鳥の飛来状況・カニの出現数等）に左右されやすい。</li> <li>2. トータルコーディネイターや野鳥ガイド等の専門的知識を有する人材が不足しており、一人一人の負担が大きい。</li> <li>3. 区役所や学校との連携が十分できていない。</li> </ol>
	手法 （上記要因を解消するために必要なこと）	<p>参加者がより観察会を楽しめるように環境学習会の内容充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>環境学習の手法の改善についての検討【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、カキ礁移動作業及び移動箇所生き物調査を行い、環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。また、新たにカキ礁に集まる魚類調査も実施する。池のカキ礁移動について、近隣の学校や市民と協働して、継続した取り組みが必要である。また、カキ礁に集まる魚類調査も行いたい。</li> <li>・アカテガニ観察会の観察に有効な場所や開催時期・時間の精査を行い、参加者がより身近に観察できるよう工夫・検討する。</li> </ul> </li> <li>2. <b>野鳥ガイドの充実【継続】</b> <p>野鳥ガイドの増員を図るとともに全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや学習会に対応できる人材を育成する。</p> </li> <li>3. <b>学校への環境学習の利用促進【継続】</b> <p>高校（府下）の生物系教師のネットワークを利用し広く呼びかけていく。地元住之江区等の近隣の学校や市民に、環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように引き続きPRに努める。</p> </li> <li>4. <b>トータルコーディネイターの育成【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネイターと段階的に人材育成できるよう、リピーター確保の取り組みを継続して実施していく。</li> <li>・また、トータルコーディネイターは年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り、他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについて検討を進めていく。</li> </ul> </li> </ol>

重点的に取り組む課題 — (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

中間報告（報告日：平成30年10月31日）		年度報告（報告日：平成31年3月19日）	
取組事項	<p><b>1. 環境学習の手法の改善についての検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>環境学習と環境保全体験の総合的な実施</u> カキ礁移動作業を生物調査とセットで行うことにより、積み上げたカキ礁が生物の良い生息場になるという作業効果を実感してもらうとともに、そこに生息する生物を知ってもらう等、環境学習と環境保全体験の総合的プログラムとして実施した。 カキ礁移動作業（7月14日）については、築港中学校が参加し、カキ礁の生物調査（7月25日）については、新たに魚類調査を含め、築港中学校に加え附属池田高校が参加した。 また、大阪湾生き物一斉調査（6月10日）には、築港中学校、市岡高校、附属池田高校が参加した。 ※H29年度のカキ礁移動作業に参加した築港中学校や市岡高校による活動内容については、昨年11月、マリンラーニング「海の宝コンテスト」（事務局：北海道大学）において優秀賞を受賞</li> <li>・<u>アカテガニ観察会の開催時期や時間の精査</u> 開催時期を大潮の時期に合わせることや開催時間をアカテガニがより多く見ることの出来る日没後の時間帯に合わせることで、また、見学ポイントの除草時期を調整する等工夫を行った。</li> </ul> <p><b>2. 野鳥ガイドの充実</b></p> <p>今年度は、新野鳥ガイド対象のOJTに4名（男性1名と女性3名）参加し、現野鳥ガイドおよびNPOスタッフとともに野鳥ガイドの業務を体験してもらいながら研修を行った。</p>	取組事項	<p><b>1. 環境学習の手法の改善についての検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>環境学習と環境保全体験の総合的な実施</u> 昨年度に引き続き、カキ礁移動作業を生物調査とセットで行うことにより、積み上げたカキ（カキ山）が生物の良い生息場になるという作業効果を実感してもらうとともに、そこに生息する生物を知ってもらう等、環境学習と環境保全体験の総合的プログラムとして実施した。今年度は、参加校も増加した。</li> <li>・<u>観察会の開催時期や時間の精査</u> アカテガニ観察会では、開催時期を大潮の時期に合わせることや見学ポイントの除草時期を調整した結果、多くのアカテガニが見られ、放仔も多く観察することが出来た。また、野鳥園初のベンケイガニも観察することが出来た。その他、春・秋の渡り鳥観察会や冬のカモ類の観察会については概ね例年通りに開催したが、多くの野鳥が観察でき、参加者にも好評であった。</li> </ul> <p><b>2. 野鳥ガイドの充実</b></p> <p>今年度も、野鳥ガイドの発掘・育成に努めた。具体には4名（男性1名と女性3名）の新ガイドを増員できた。</p> <p><b>3. 学校への環境学習の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>教員への環境学習会参加の促進</u> 今年度より、附属池田高校の先生を介して大阪府高等学校生物教育研究会のメーリングリストに野鳥園で開催する環境学習の内容を連絡</li> </ul>

	<p><b>3. 学校への環境学習の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>教員への環境学習会参加の促進</u> 大阪府下高等学校の生物の先生のネットワークのお世話をされている、附属池田高校の先生を介して、大阪府高等学校生物教育研究会のメーリングリストに野鳥園で開催する環境学習の内容を連絡し、教員の参加を募るようにし、広く呼びかけた。</li> </ul> <p><b>4. トータルコーディネイターの育成（スキルアップ）</b></p> <p>各種の観察会・学習会を企画する際、コーディネイターミーティングで実施方法の改善を検討するなどし、個々のスキルアップを行うとともに、他のスタッフ（野鳥ガイド）についても積極的に事業に参画することにより人材育成を図った。</p> <p>また、大分県中津干潟で地元 NPO との交流（シギ・チドリ類の集中調査の協力、情報交換、調査結果の地元での発表など）を前年度に引き続いて実施し、人材の育成および活性化につなげてきた。</p> <p><b>5. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>リピーターの確保</u> 過去の参加者に対し、観察会の定期的な個別案内（希望者）などにより、リピーターの確保を行った。 ※台風の影響によって、7月に予定していた「ハクセンシオマネキ観察会」は中止となった。</li> </ul>		<p>し、教員の参加を募るようにし、広く呼びかけを行った。</p> <p><b>4. トータルコーディネイターの育成（スキルアップ）</b></p> <p>各種の観察会・学習会を企画する際、コーディネイターミーティングで実施方法の改善を検討するなどし、個々のスキルアップを行うとともに、他のスタッフ（野鳥ガイド）についても積極的に事業に参画することにより人材育成を図った。</p> <p>大分県中津干潟で地元 NPO との交流（シギ・チドリ類の集中調査の協力、情報交換、調査結果の地元での発表など）を年3回実施した。</p> <p><b>5. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>リピーターの確保</u> 過去の参加者に対する観察会の定期的な個別案内（希望者）や野鳥園だよりの配布などにより、リピーターの確保を行った。</li> </ul>
--	---	--	---

数値目標	計画		実績		振返り	
	項目	最終目標	中間実績	H30 年度実績	最終目標比較増△	H29 年度実績
					減	
野鳥ガイド	実施回数	40 回	29 回	37 回	△3 回	36 回
野鳥の会探鳥会	実施回数	12 回	7 回	12 回		12 回
野鳥ガイド	登録人数	40 人	26 人	29 人	△11 人	25 人
	一人で解説できる野鳥ガイドの人数	25 人	16 人	16 人	△9 人	17 人
環境学習会	単発観察会実施回数	6 回	8 回	9 回	+3 回	9 回
	環境学習会初参加者数	30 人	60 人	73 人	+43 人	93 人
	各環境学習会の定員充足率	平均 100%	平均 96%	平均 86%	△14%	平均 98%
学校を対象とした環境学習会	学校を対象とした環境学習会の実施回数	2 回	2 回	3 回	+1 回	3 回
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	未実施	未実施		実績なし
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5 人	4 人	4 人	△1 人	4 人
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換回数	3 回	4 回	6 回	+3 回	3 回
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施回数	2 回	0 回	2 回		0 回
リピーター確保の取り組み	野鳥園だよりの配布回数	4 回	3 回	4 回		4 回
	希望者へ環境学習会の案内	実施	実施	実施		実施

	野鳥園サポーター制度(仮称)導入に向けた検討  ※案内希望者をリスト化し、個別案内を行っている。	実施	検討中	検討中		検討
中間評価（評価日：平成30年10月31日）			年度評価（評価日：平成31年3月19日）			
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込み <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成			
自己評価 (課題と改善策)	<b>1. 環境学習の手法の改善についての検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習と環境保全体験の総合的な実施 カキ礁移動とセットで行った生物調査により、参加者はカニ類や貝類など全体で26種の生物を観察することができた。よって、カキ礁移動について、引き続き環境学習と環境保全体験の総合的プログラムとして実施し、近隣の学校や市民と協働して、継続した取り組みが必要である。魚類調査については、小型ソリネットを曳いたが、魚類が上手く網に入らなかったため、今後ソリネットの曳き方を工夫するなどしてさらに調査を進めていきたい。</li> <li>アカテガニ観察会の開催時期や時間の精査 時期や時間を工夫した結果、アカテガニは多く見られ、放仔も多く観察出来た。また、野鳥園初のベンケイガニも観察することが出来た。今後とも除草時期、開催時期、時間帯を考えた取り組みを行う。</li> </ul> <b>2. 野鳥ガイドの充実</b> 今年度は4名（男性1名と女性3名）増員した	自己評価 (課題と改善策)	<b>1. 環境学習の手法の改善についての検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習と環境保全体験の総合的な実施 カキ礁移動とセットで行った生物調査により、積み上げたカキ(カキ山)が生物の良い生息場になるという作業効果を実感してもらうことが出来た。北池のカキの繁殖は続いており、引き続き環境学習と環境保全体験の総合的プログラムとして実施する必要がある。</li> <li>観察会の開催時期や時間の精査 アカテガニ観察会では、開催時期や時間を工夫した結果、アカテガニは多く見られ、放仔も多く観察出来た。今後とも観察会ごとに開催時期や時間帯を考慮しつつ、内容充実も検討し参加者の満足度の向上を図っていきたい。</li> </ul> <b>2. 野鳥ガイドの充実</b> 今年度は4名増員し、最終目標の40名に対し、29名と目標に11名足りない状況であるが、年間延べ1,350人をガイドし、初心者でも楽しんで野鳥観察して頂くための手助けとなっている			

	<p>が、最終目標の 40 名に対し、26 名と目標に 14 名足りない状況である。今後とも、新ガイドのフォローと共に、引き続き増員に取り組む。</p> <p><b>3. 学校への環境学習の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>教員への環境学習会参加の促進</u>        今回、大阪府下の高等学校教師がアカテガニ観察会に初参加するなど、一歩前進した。今後も大阪府高等学校生物教育研究会のメンバーに野鳥園で開催する環境学習の内容を連絡し、教員、生徒、学生の参加を募るようにし、広く呼びかけていく。</li> </ul>		<p>る。</p> <p><b>3. 学校への環境学習の利用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>教員への環境学習会参加の促進</u>        大阪府下の高等学校教師がアカテガニ観察会に初参加するなど、一歩前進した。今後も継続して、大阪府高等学校生物教育研究会のメンバーに野鳥園で開催する環境学習の内容を連絡し、教員、生徒、学生の参加を募るようにし、広く呼びかけていく。</li> </ul> <p><b>4. トータルコーディネイターの育成（スキルアップ）</b></p> <p>大分県中津干潟での地元 NPO との交流により、地元 NPO の環境保全や環境学習のノウハウを野鳥園での委託業務に生かすことが出来た。また、大分県のみならず、福岡県、山口県など他府県の湿地保全関係者との交流や人的ネットワークを構築することが出来た。</p>
--	--	--	--



委員評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 カキの移動作業による体験学習については、昨年度より参加校に広がりが見られるなど評価できる。移動したカキ礁を利用する魚類調査については、調査方法・採取用具などを工夫・改善しつつ、継続して実施してほしい。</li> <li>2 きめ細かな工夫と準備によってアカテガニの観察会が成功したことは質的向上として評価できる。</li> <li>3 大阪府下高等学校の生物の先生のネットワークで野鳥園での取り組みや事業をPRしたことにより、環境学習の利用促進に向けて前進が見られていることは評価できる。野鳥園での取り組みを今後も継続して発信することにより、参画する学校が増加していくことを期待する。</li> </ol>	委員評価	
------	--	------	--

4 重点的に取り組む課題 – (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	将来像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。</li> <li>2. 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民に認識してもらうことで、自然環境への理解を深めてもらう。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民の認知度が低いと考えられる。</li> <li>2. 府下では年間で最も多くの野鳥(約130～150種)が見られること、特に湿地では年間90種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。</li> <li>3. 広報活動の改善により環境学習会の定員充足率は増加している。</li> </ol>
	要因分析	市民への広報充実は一定進んでいるが、さらに工夫・改善が必要
	手法(上記要因を解消するために必要なこと)	<p>効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民に対し野鳥園で実施している環境学習会などの情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>効果的な情報発信の実施【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。</li> <li>・ホームページや、ブログやスタッフ個人による facebook 等の SNS を活用し、工夫・改善を図りながら情報発信を行う。</li> <li>・新たに展望塔に設置する野鳥解説の下敷きの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。</li> <li>・年間4回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を継続して発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しで配布するほか、環境学習会参加者の希望者にイベントの案内を適宜実施する。</li> </ul> </li> <li>2. <b>今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</b> <p>現行の事業委託の最終年度となることから、様々なユーザーに意見も聞きつつ港湾局・建設局・NPO法人ウェットランドグループの3者で事業の総括を行い、将来の野鳥園干潟・湿地の環境保全に繋げるとともにホームページなどで発信する。また、今期事業の活動内容や野鳥の飛来状況、底生生物やアカテガニ・ハクセンシオマネキ等、貴重な環境資源をPRするため、一般市民を対象に環境学習会(学習会の後にミニ観察会)を企画・実施する。</p> </li> </ol>

重点的に取り組む課題 ー (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成30年10月31日）		年度報告（報告日：平成31年3月19日）	
取組事項	<p><b>1. 効果的な情報発信の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>広報媒体の活用</u>                      プレスや区広報紙、ホームページなどの広報媒体の積極的な活用や観察会の個別案内（希望者）などにより、観察会の参加者数増、リピーターの確保に向けて取り組んだ。</li> <li>・ <u>ブログからの情報提供</u>                      野鳥や昆虫や植物のトピック記事、野鳥の識別、湿地の手入れ、観察道具のことなど、様々な話題提供を行った。コメント機能を付して利用との相互コミュニケーションが可能となっている。</li> <li>・ <u>事業用の資料作成</u>                      野鳥ガイド実施日のポスター、各種観察会の参加者配布資料、勉強会資料、観察会の参加者募集用のポスター・ちらしなどを作成し、展望塔に掲示した。ちらしの配布は野鳥ガイドも協力した。</li> <li>・ <u>野鳥園だよりの作成</u>                      3か月に1回野鳥園だよりを作成・発行した。野鳥ガイドにより来園者に手渡ししている。</li> <li>・ <u>パンフレットの制作</u>                      野鳥園の情報を紹介する新たな広報用パンフレットの制作に取り組み、今年度完成した。写真と地図を以前のパンフレットと比べて見やすくし、環境学習のテーマとなることも記載した。来園者や観察会参加者だけでなく、教育関係者、自治体の環境部局にも配布し活用を図っている。</li> </ul> <p><b>2. 今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</b></p> <p>次期アドバイザーボードまでに取りまとめ、報告する予定である。</p>	取組事項	<p><b>1. 効果的な情報発信の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>広報媒体の活用</u>                      年間を通じ、新聞や区広報誌など各種広報媒体を積極的に活用して、観察会の参加者数の増加、リピーターの確保に向けて取り組んだ。また、野鳥園ホームページ及びブログからの情報提供や野鳥園だよりの作成、観察会での事前レクチャー用の資料作成を引き続き行った。                      また、大阪市ホームページにおいても、野鳥園の魅力発信のため、施設情報に加え、季節ごとの鳥や各観察会の概要等を写真とともに掲載したページを作成した。</li> <li>・ <u>下敷きの作成等</u>                      野鳥園に飛来する野鳥を紹介した下敷きの作成に取り組んだ。4月に展望塔に設置予定である。イラストにより視覚的に分かりやすいものにし、野鳥園内の場所ごとに現れる野鳥をMAP内に記載した。</li> <li>・ <u>フラッグ標識シギ・チドリ類の観察記録の展示</u>                      1995～2018年に渡来したフラッグ標識シギ・チドリ類の観察記録を展望塔内に展示した。                      ※フラッグ標識                      シギ・チドリ類の渡りルートについて観察情報を多く集めるため、研究者が鳥の足に旗をつけ移動のデータを集計している。</li> </ul> <p><b>2. 今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</b></p> <p>第9回アドバイザーボードにて今期事業</p>

の総括を行うとともに、貴重な環境資源についてさらに PR するため、大阪市ホームページに新設した野鳥園ページや NPO の野鳥園ホームページで様々な活動を紹介していく。

**3. その他**

今年度より展望塔入口に新たに人感式カウンターを設置し、来園者数を計測した。  
(2018/04/27～2019/03/08 : 38,000 人)

※指定管理時には年間約 10 万人の来園者があったが、緑地部の来園者も含めた数字である。当時は、緑地部での遠足等の団体利用も多かった。

具体的取組	計画		実績		振返り	
	点検項目	最終目標	中間実績	平成 30 年度実績	最終目標比較増△減	平成 29 年度実績
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施	実施		実施
	各イベント案内	実施	実施	実施		実施
さまざまな広報媒体の活用	大阪市 HP への掲載回数	2 回	4 回	5 回	+1 回	4 回
	区役所へのイベントチラシ配備 (回数)	実施	3 回	4 回		3 回
	区広報紙への記事掲載回数 (特集記事含む)	1 回	2 回	3 回	+2 回	5 回
	新聞への記事掲載回数	2 回	3 回	4 回	+2 回	5 回
	ブログにより情報発信	実施	実施	実施		実施
展望塔内の展示スペースの活用	展示スペースの更新回数	4 回	1 回	2 回	△2 回	3 回
	野鳥写真の掲示回数	3 回	2 回	3 回		3 回
	野鳥ガイド時のアンケート	実施	実施	実施		実施
	下敷きの作成	実施	企画中	実施		企画中

中間評価（評価日：平成30年10月31日）		年度評価（評価日：平成31年3月19日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
自己評価 （課題と改善策）	<p><b>1. 効果的な情報発信の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>環境学習会の定員充足率</u> 春、夏の観察会に関しては100%を超えたが、秋の観察会に関しては、54%であった。今後、秋の観察会の充足率の低迷原因については、検証を行う一方、春、夏の観察会に関しては、効果的な広報が行えたことから、引き続きより効果的なPR方法を検討することで、野鳥園の魅力のPRを継続して行っていく必要がある。</li> <li>・<u>新たなリピーターの獲得</u> 野鳥園だよりの発行をはじめとして、観察会の定期的な個別案内（希望者）を行う等、引き続き新たなリピーターの獲得に向けて取り組んでいく。</li> </ul> <p><b>2. 今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</b></p> <p>台風21号による被害が甚大であり、その復旧作業に尽力するとともに、今後様々なユーザーの意見も聞きつつ、港湾局・建設局・NPOの3者での総括を行う予定である。</p>	自己評価 （課題と改善策）	<p><b>1. 効果的な情報発信の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>広報媒体の活用</u> 野鳥園の魅力発信のため、施設情報以外の各種学習会や保全活動に関する情報等を記載した大阪市ホームページを新設した。例えば、各種学習会や保全活動終了後には、実施内容・事業結果を掲載することで、野鳥園の魅力を広く届けていく。</li> <li>・<u>環境学習会の定員充足率（申込者数/定員）</u> 1月に実施した夕暮れカモウォッチングに関しては62%であったが、年度全体の定員充足率は平均86%となり、昨年度数値より低くなった。 夕暮れカモウォッチングでは、参加者31名中6名が個別案内（希望者）をきっかけとした申込であったことから、個別案内（希望者）は効果的であったといえる。 今後も、効果的なPR手法の検討や観察会の充実を図っていく必要がある。</li> <li>・<u>新たなリピーターの獲得</u> 観察会において、過去の観察会に参加経験がある参加者の割合が、昨年度より17%上昇し、リピーターの増加が見られた。（今年度：参加者合計101名中28名、昨年度：参加者合計99</li> </ul>

			<p>名中 11 名) ※参加者=アンケート回収者</p> <p>野鳥園だよりの発行をはじめとして、観察会の定期的な個別案内(希望者)を行う等、引き続き新たなリピーターの獲得に向けて取り組んでいく。</p> <p>・<u>下敷きの作成等</u></p> <p>園内に飛来する野鳥の種類を場所ごとに MAP に示すことで、初心者でも生息環境の違いを認識しながら野鳥を探す楽しみを感じて頂けるようになった。</p> <p><b>2. その他</b></p> <p>来園者数の計測は、野鳥園の価値の評価につながるため、引き続き計測・分析を行っていく必要がある。緑地部の利用状況の把握については今後の課題である。</p>
<p>委員評価</p>	<p>1 環境学習会に配布した資料や、実施した学習内容について、野鳥園のホームページに掲載し、誰もが見られるようにするのが望ましい。</p> <p>また、行政(大阪市)のホームページ上においても、野鳥園の魅力発信を広げていくため、各種学習会や保全作業の実施内容・事業結果などを掲載してはどうか。</p> <p><b>【意見】</b></p> <p>・2025年の夢洲での万博開催が決定した。万博会場という未来都市に近接する貴重な自然環境(癒しの場)であるウェットランドのあり方や環境保全と賑わいの両立という観点で、改めて、野鳥園の役割や活用方法について検討を行</p>	<p>委員評価</p>	



	<p>う必要があるのではないか。一方で、音や光などによる野鳥への影響も少なからず起こることも考えられる。(プラス面とマイナス面)</p> <p>・野鳥園ミュージアムのスポンサーを広く世界から公募してはどうか。港湾地区が大阪の観光資源として万博成功に協力できるチャンスを活かしてはどうか。</p>		
--	---	--	--

◎今期の業務委託(H26～H30)の目標管理【将来像】に対する事業総括

	自己評価 (総括) (評価日：平成31年3月19日)	委員意見 (評価日：平成31年3月19日)
将来像 (最終目標) の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
(1) 湿地の保全・再生	<p><b>将来像 (再掲)</b></p> <p>1. シギ・チドリ類の渡来種数            ・春 (3～5月) : 22種            ・秋 (8～10月) : 24種            湿地の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。</p> <p>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数 : 60種            湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</p> <p>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。</p> <p><b>【自己評価】</b>  <input type="checkbox"/> シギ・チドリ類の渡来種数 (平成26～30年度)</p>	

- ・春（3～5月） 19種→22種→24種→22種→19種
  - ・秋（8～10月） 17種→22種→27種→27種→28種
- 【参考：環境省モニタリングサイト1000〈2016年〉から】
- ・東京港野鳥公園（指定管理） 春10種・秋7種
  - ・谷津干潟自然観察センター（指定管理）春18種・秋21種

シギ・チドリ類以外の年間渡来種数（平成26～30年度）  
 50種（11～3月）→116種→115種→105種→108種

国内外で渡り鳥の生息環境が悪化し、飛来数が減少する中、鳥類や底生生物及び干潟の現況調査を継続的に実施するとともに、湿地の環境保全のための湿地部への落葉（緑地部で落葉を腐葉土化）投入や、北池のカキ礁の一部移動（休み場への再利用）などの順応的管理を実施してきた。

これらの取り組みにより、有機物の適度な堆積を確保しつつシギ・チドリ類の生息環境を整えることで、当初、将来像で目標としていた飛来種数を春については概ね達成、秋については目標以上に達成をしており、渡り鳥の中継地としての役割を概ね果たしている。また、シギ・チドリ類以外の飛来種数についても将来像としての目標を大きく上回っており、様々な鳥に適応した生息環境の保持が出来ている。

一方、底質については、台風21号の越波による底質の攪乱を受けそれまでの生態系が更新された可能性がある。特に、底質の攪乱があった場所については、シギ類の渡来が明らかに多くなったことが観察されている。この攪乱による底質変化は、過去には平成16年の台風18号においても見られた。いずれの台風も三つの池が一つになるような越波と暴風であった。このような台風による自然攪乱は、野鳥園のような潟湖的な人工干潟

	<p>では重要な底質への刺激因子となると考えられる。北池の滞筋（みおすじ）については、さらに掘削を行い海水の流れを復旧する必要があるが、越波で移動した土砂や岩で埋まっている干潟内の箇所を含め、生物の生息状況の変化なども観察しつつ、必要に応じ復旧作業を実施していく。</p> <p>今後もある識者の意見や大阪市立大学等の協力も得ながら経過観察を行い、順応的管理を都度継続的に実施していく必要がある。</p>	
<p>(2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成</p>	<p><b>将来像（再掲）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画し、実施する。</li> <li>2. 専門的知識を有する多数の人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。</li> </ol> <p><b>【自己評価】</b></p> <p>平成 29 年度から、それまで干潟面積の減少の原因の一つとなっていたカキ礁の一部を移動する作業（鳥の休み場づくりに再利用）を生物調査とセットで企画・実施し、積み上げたカキ礁（カキ山）が生物の良い生息場になるという作業効果を参加者に実感してもらうことができる魅力あるプログラムとなった。（海の宝コンテスト 2017 にて、優秀賞を獲得）</p> <p>参加校数も増加しつつあり、この取り組みを継続して実施していきたい。その他の野鳥観察会やアカテガニをはじめとする生き物観察会についても参加者数が増加してきており、今後も、</p>	

	<p>魅力ある学習会・観察会を実施していきたい。</p> <p>各事業を包括して計画・管理し、貴重な環境資源である野鳥園の役割を果たすため、コーディネイターミーティングで各種観察会・学習会の実施方法改善を検討するほか、他の湿地管理団体と継続しての交流や個々のスキルアップを図ることで、将来の後継者となるトータルコーディネイターを育成してきた。また、トータルコーディネイターにより、野鳥ガイドや環境調査員などの人材の育成を進めてきた。</p>	
<p>(3) 広報活動の充実</p>	<p><b>将来像（再掲）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。</li> <li>2. 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民に認識してもらうことで、自然環境への理解を深めてもらう。</li> </ol> <p><b>【自己評価】</b></p> <p>環境学習会の参加者数は、平成 27 年度から平成 30 年度にかけて、34 名→77 名→133 名→151 名へと増加している。湾岸地域の区広報誌や新聞への掲載、野鳥園だよりの作成・配布やブログでの発信等、広報を強化してきた結果、幅広い市民に野鳥園の存在やイベントについて情報発信することが出来た。今後も、効果的な PR 手法を採用しつつ、大阪市ホームページの野鳥園ページなどの充実も図っていきたい。</p> <p>各観察会においても、野鳥や生き物の生態や魅力についての事前レクチャーと観察時に野鳥ガイドによる丁寧な解説を行うことで、野鳥や生き物を探す楽しさや野鳥園の魅力を発見し、自</p>	

然環境への理解を深めて頂くことが出来た。

平成25年に集客条例施設としては廃止されたものの、同年10月市会における、「干潟・湿地の環境を保全し、野鳥の観察ができる貴重な環境学習の場として、市民が引き続き利用できるよう施設の機能を維持すること」という市会の附帯決議を踏まえNPOとの協働事業として取り組みを進め、一定、その使命は達成できた。引き続き、貴重な都市資源である野鳥園臨港緑地の湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供できるよう事業を進めていく考えである。